

“音齋人” 新聞

“音齋人”は以前書いた通り、音楽好きが月一回集まって、ワイワイガヤガヤお話をしながら、レコード盤から流れる楽曲を楽しむことが中心です。とは言え、これから少しずつやっていければ良いなっと思っている事業が幾つかあります。

一つ目は、“音齋人”を開催している古民家、安田邸の改修

二つ目が、所蔵レコード盤の洗浄とデジタル・アーカイブ作り

三つ目は、安田邸を利用して“音齋人”以外に色々やっ

てくださる方の募集

勿論こうした事業を計画的にやると云う準備は、現時点では全くありません。ただ“音齋人”の頭の中に漠然とあるだけの段階です。というのも、どの事業にもある程度の時間と人手、それにお金が必要となるからです。そうは云っても手を拱ねているわけではありません。手掛かりがつく処から始めているものもあります。

例えば「安田邸の改修」については、地元の大工さんのご協力をえて、少しずつ住環境の改善が為されています。目標としては、飲食営業の許可がとれるレベルまで環境を整えていくと云う事です。最終的には、夜お酒を飲みながらジャズの鑑賞ができるくらいに、漏音対策を施した『おとなのバー』を目指しています。

“音齋人”以外の安田邸の利用に関しても、「いわむら五つこ」でワークスペースとしての利用も始まっています。今後は「いわむら五つこ」に参加されているワークシヨップ主催者の方々との協力も進めていきたいと思えます。そんな中で今回は、私の担当しているレコード盤の洗浄とデジタル・アーカイブの進み具合についてお知らせします。

じつは安田邸には、“音齋人”を始める前からかなり沢山のレコード盤が集められていました。これは「ドラムもたたけるファーマー」として活躍中の、現在は笠木町在住でファームルーツ経営者の佐藤さんが始められた事業の名残です。

もう三年ほど前の話です。岩村に足しげく通っている私が、たまたま耳にした安田邸での佐藤さん達の活動に興味を持ち、佐藤さんにお話をききたくアポを取ったところから始まりました。その時の話によれば『安田邸をレコードシヨップにして、地元の方から寄贈されたレコードを販売しよう』と云う計画だったそうです。その話をきいて私が思ったのは、売ってしまうのは勿体無いな、という事です。

せっかく集めたレコード盤も売ってしまえば残りません。それに、寄贈されたレコード盤一枚一枚には持ち主の方の思い出が詰まっているはず。そんな思い出を遺しながら、レコード盤を使って何かできないかと相談し

た結果、始まったのが“音齋人”でした。その後、“音齋人”へのレコード盤の寄贈も増えてきました。

そこで少しずつ進めてきたのが、“音齋人”・安田邸に集められたレコード盤の洗浄とデジタル・アーカイブ作りです。

何十年も聴かないでしまつてあったレコード盤と云うのは、そのままですぐに良い音を再生してくれるものではありません。ジャケットについた埃、レコード盤に点々と付着している白い点(大概はカビなのですが)、或いはレコード盤に残る傷、手垢でくすんでしまった内袋、等々……こうしたものを一枚ずつ丁寧に洗浄していかないと、録音された当時の音として再生するのは難しいのです。こうした洗浄を経た後、いよいよターンテーブルで再生してデジタル化するわけですが、こうした作業に要する時間は、例えば両面四十分の楽曲を収録したLPレコード盤であれば、当然ながら最低でも四十分間必要となります。実際には、デジタルの途中で様々なアクシデントが起きますから、通常ちゃんとしたデジタルが完了するまでには、LP収録時間の三倍くらいが必要となります。結構気長な作業なんです。私はどちらかと言うとこうした作業が好きで性格なので苦にはなりません(笑)

ただ現時点で“音齋人”・安田邸にあるレコード盤は、優に五百枚を越えています。単純計算で一枚一時間収録のレコード盤として、最低でも五百時間、実際のところ

ではその三倍の千五百時間くらいはかかる見通しです。毎日八時間・休まずやるとして半年近くかかるわけで、結構気が遠くなる作業ではありません。なので、現在はデジタルサイズよりも先に、今後の作業過程として必要となり、集中作業が可能な洗浄作業を少しずつやっています。

安田邸での「音齋処」定期開催も二年目に入り、昨年来の常連の方も増えてきた事もあり、この初夏に一つの提案をさせていただきました。「音齋処」アーカイヴサポーター」というのがそれで、「音齋処」・安田邸にあるレコード盤のお好きなものを選んでもらい、そのアーカイヴ費用をご寄付いただく」というものです。内容的には次のような感じですよ。

- 「レコード盤一枚五百円、L.P・E.Pのサイズに無関係」
- 「一枚単位で受け付け可能」
- 「作業単位はレコード盤二十枚分が集まったら開始」
- 「デジタルアーカイヴ作成にはレーザーインターフェースを使用」
- 「アーカイヴ完成後サポーター名を標記したタグを付けて、音齋処・安田邸にて当該レコード盤を保管・管理」
- 「アーカイヴされたデジタル音源や元となったレコード盤をお渡しするものではありません」
- 「デジタルアーカイヴは、PCM 24 bit 192 KHz AIFのハイレゾ音源と、MP3のCD品質にて行います」
- 「収録メディアは、ハイレゾ音源はDVDディスクに、MP3音源はCDメディアに各々収録」

いわばクラウドファンディングのミニチュア版のようなも

のです。なので、特典も「サポーターとして名前が残る」程度しかできません。（これは著作権法上の問題など、音楽産業に関連する様々な法令を遵守するためです。つまり、違法コピーでレコード音源を販売すると云うものではありません。）

この『音齋処』アーカイヴサポーター』は、未だ本格的なアナウンスや募集活動をしていません。今年の初夏に開催した「音齋処」で、こんなことを考えていると紹介しただけです。が、素早く反応してくださったサポーター二名から、計四十枚分のドネーションをお預かりしております。

こうしたドネーションを何に使うのかをお話ししてきます。

- 「交換用の内袋・外袋の購入」
- 「レコード盤洗浄用の精製水・クリーニング液の購入」
- 「CD・DVDメディアとメディア収納袋の購入」
- 「レコード盤保管・管理用段ボール箱の購入」

等々、実際にレコード盤の洗浄とデジタルサイズ作業に必要なとなる物品の購入に使用しています。というのも、所蔵枚数が増えるに従い、流石に私費では賄い切れなくなってきたためです。なので、技術料とか儲けとか云った私の取り分が入っているわけではありません。念のため。

因みにWebなどで調べていただければわかると思いますが、デジタルサイズサービスを利用すると、相場としてはLP一枚三千円以上しています。しかも出来上りの音質レベルはCD音質が一般的で、ハイレゾ化は別料金になります。またレーザーインターフェースを使用するところ

もあるようですがその際の料金は不明で、一般的には針式のターンテーブルを使っているようです。

今回は、今後「音齋処」がどんな方向に行こうとしているのかの概要と『音齋処』アーカイヴサポーター』についてお知らせしました。内容についてのご質問、ご意見は「音齋処」開催時におうかがいしたいと思います。

「音齋処、アーカイヴサポーターのドネーションにより、アーカイヴの完成したLP



発行 ◇平成29年9月23日
発行人 ◇「音齋処」主催者
横田 文孝